

新潟県立長岡聾学校

きこえ通信

当校 HP に
も掲載中！

<https://nagaokarou.nein.ed.jp/>

新潟県立長岡聾学校通級指導教室

〒940-0093 長岡市水道町 2-1-13

TEL 0258-38-0210 (通級指導教室)

FAX 0258-39-5665

* 電話は 18 時までをお願いします。メールもご利用ください。

e-mail school@nagaokarou.nein.ed.jp

発行：令和 7 年 11 月 令和 7 年度 第 7 号

自分の聞こえをどう説明するか？



難聴がある人によっては、積極的に自分のきこえのことを話す場合もありますが、あまり知られたくない、黙っている、と言う人もいます。

標記の取り組みを、中3生徒に対して行っています。小中学校は、知っている友達も多く、保護者の方と学校の先生方との連携で、安心して過ごせることが多いと思います。ところが、高校や大学等、就職先となると、知っている人も少なくなります。年齢的にも大人になることから、少しずつ、自分の聞こえや支援してほしいこと、理解してほしいことを、自分で伝えていくことが増えると思います。その時に、どのようなことを他の人から聞かれそうか、どう答えると良いか、参考資料をもとに、右のようなプリントを使用して学習しています。最終的には「きこえのトリセツ」というパンフレットを作成し、それを活用して入学した高校で説明した生徒もいます。

今までの取り組みで生徒は「全部分かるわけではない。」、「小さい声や音は分からないこともある。」、「遠くから言われると分からないことがある。」など書いていました。また、学習後の感想としては、「きちんと説明しようと思った。」、「自分が伝えにくいと友達が代わりに言ってくれたが、高校では自分で伝えられるようにしようと思った。」などがありました。前回のきこえ通信の「高校入試の特別措置」とも関わりますが、自分はどんなことが苦手で、どう助けてほしいかを伝えられるようになってほしいと思います。今すぐに、100%できる必要はありません。少しずつで良いと思います。加えて、お礼もきちんと言うと、次回も気持ちよく協力してくれると思います。

耳に掛けて
いるの、何？

補聴器と言って、
音や声を大きくし
てくれる機械よ。

それをつけると、
人の話は全部
分かるの？

あなたが
この生徒なら、
どう説明
しますか？

「聴覚障害教育
これまでとこれから」より
(脇中起余子：北大路書房)

耳やきこえに
影響がある
場合も…

風邪に注意！！



いろいろな感染症がはやっています。風邪を引くと鼻をかむ回数が増えます。そのため、耳と鼻をつないでいる耳管の周りで炎症を起こし、鼓膜が中に引き込まれてしまいます。その結果、耳管狭窄症や滲出性中耳炎と診断される場合があります。耳管狭窄症はトンネルの中のようなきこえ方になることがあり、滲出性中耳炎は伝音性難聴の原因の第1位と言われています。また、突発性難聴の原因の1つとしてウイルス感染があげられています。風邪などの感染症にかからないように①手洗いとうがいの励行、②栄養や睡眠を十分とる、③かかったら早めの受診、治療をお願いいたします。*西馬込あくつ耳鼻咽喉科、たまき耳鼻咽喉科、日本橋大河原クリニック、レイクタウンたけのこ耳鼻咽喉科 HP 参照

通級保護者会:

講話「働く時の心構えについて」



今回の保護者会は、きこえにくさのある当校職員で、民間企業勤務経験のある A 先生の講話をお聞きしました。大きなテーマとしては、「自分のきこえやお願いしたいことは、自分できちんと言おう」ということです。まさにこの通級指導教室でずっと伝えてきたことです。参加された方々からも好評でした!

以下、概要をお伝えいたします。

1 会社でどうすれば良かったか。

○話を聞かるときにメモを取らなかったこと。

→自分のきこえ(どのような場面でききとりにくいのか)を伝え、全部メモを取るの難しいので、資料があれば事前にもらえるようお願いすること。

○聞き間違いについて

→口頭での指示だけでなく、文面で伝えてほしいことを願います。

口答での指示であればその場で確認や質問をする。

2 助けてもらうばかりでなく、自分も得意なことなどで、周囲を助ける。

○A 先生はパソコンが得意で、民間企業勤務の時も現在も、周囲の人へ設定や使い方などを教えています!

やっぱり、自分で言えることが
大切! (以前の保護者会でも話題に)



周囲の人が代わりにメモを取ってあげることもありますが、自分で言えるようにする支援も必要です。

学校にいる時は、①話す人(先生など)はほぼ前で話している、②教科書やプリント、板書など目で確認できる物がある、③することは友達など、周囲の人とほとんど一緒だから、周囲の人の様子を見て動けば間違いは少ない、という状況で、あまり困ることはないという生徒が多くいます。ところが働くとなると、そうはいきません。口答での指示が多いこともありますし、きこえにくさについて本人と職場の情報共有がなされないと、電話対応、BGM、マスクをしている人が多い職場でききとりにくい、ということも考えられます。きこえにくい方の当時者会に参加したときに、ほとんどの方は「多少のきこえにくさはあったけど、学生の時は困らなかった。バイトや就職できこえのことで本当に困った」と話していました。

通級は小中学校のみです。上記の1番困る時に、通級はありません。

その中でも「上司や人事担当の人に話して、他の人と話さなくてもいい部署に替えてもらった」「別の会社を探した」「電話はしなくても良いようにお願いした」など、きこえやすい環境を工夫して、何とか乗り切った、というお話をお聞きました。やはり、自分で「きこえにくさやどうしてほしいかを具体的に話し合う力(できません、きこえません、補聴器を着けています、だけでなく)」をいろいろな場面で伸ばしていくことが求められます。小中学校の通級などで支援を受けている内に、身につけてほしいと思います。聾学校では、高校生までのきこえにかかわる相談を受け付けています。こちらもご利用ください。相談窓口は0258-38-0191(長岡聾学校:教頭)です。



上記の「働く時の心構え」にかかわって、難聴のある児童生徒は、「きこえやお願いしたいことを伝える」だけでなく

早くから、将来の過ごし方を考えてみる

必要があるように思います。例えば、次のことについて現在どのくらい身についているか、これから身につけられそうか、考えてみてはいかがでしょうか。★補聴器、マイクや電池の適切な管理、★受診や補聴器店への予約や行き方、★得意なことや好きなこと、苦手なこと、★学力、★家庭内の仕事、★部活などの課外活動への興味や取り組み方、★バスや電車などの公共交通機関の利用の仕方、★運転免許を取るのか、★自分で起床、着替えや後片付けなどの身の回りのこと、★どんな仕事に興味や適正があるか、★自宅近くで働くのか、県外などへ行きたいのか(一人暮らしをする)、★お金の管理、★身近な例を元に必要のない契約等に気をつけること、★時間の使い方 など

「大人がやった方が早い」場合もあると思いますが、いずれ自分でできるように一緒にやることから始めるのでも良いと思います。「もっと大きくなってからでいい」と思われるかも知れませんが、後で「もっと早くこうしていれば」ということもあります。生徒一人一人に合わせて、通級でも「きこえやお願いしたいことを伝える」と一緒に考えていきます。